

新経済大国日本 (愛称：テック・スラッガー)

運用報告書(全体版) 第51期

(決算日 2025年 8月25日)
(作成対象期間 2025年 2月26日～2025年 8月25日)

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、わが国の株式に投資し、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	無期限（設定日：2000年 2月25日）
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	わが国の金融商品取引所上場株式および店頭登録株式
株式組入制限	無制限
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
お問い合わせ先（コールセンター）
TEL 0120-106212
(営業日の9:00～17:00)
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			T O P I X (配当込み)		株 式 組入比率	株 式 先物比率	純資産 総 額
	(分配落)	税込み 分配金	期 中 騰落率	(参考指数)	期 中 騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
47期末 (2023年 8 月24日)	13, 057	600	15. 8	3, 802. 02	16. 6	97. 4	—	1, 453
48期末 (2024年 2 月26日)	14, 031	1, 500	18. 9	4, 494. 35	18. 2	97. 5	—	1, 506
49期末 (2024年 8 月26日)	13, 901	350	1. 6	4, 526. 79	0. 7	94. 9	—	1, 536
50期末 (2025年 2 月25日)	13, 916	0	0. 1	4, 687. 95	3. 6	97. 4	—	1, 420
51期末 (2025年 8 月25日)	14, 611	700	10. 0	5, 415. 50	15. 5	98. 4	—	1, 443

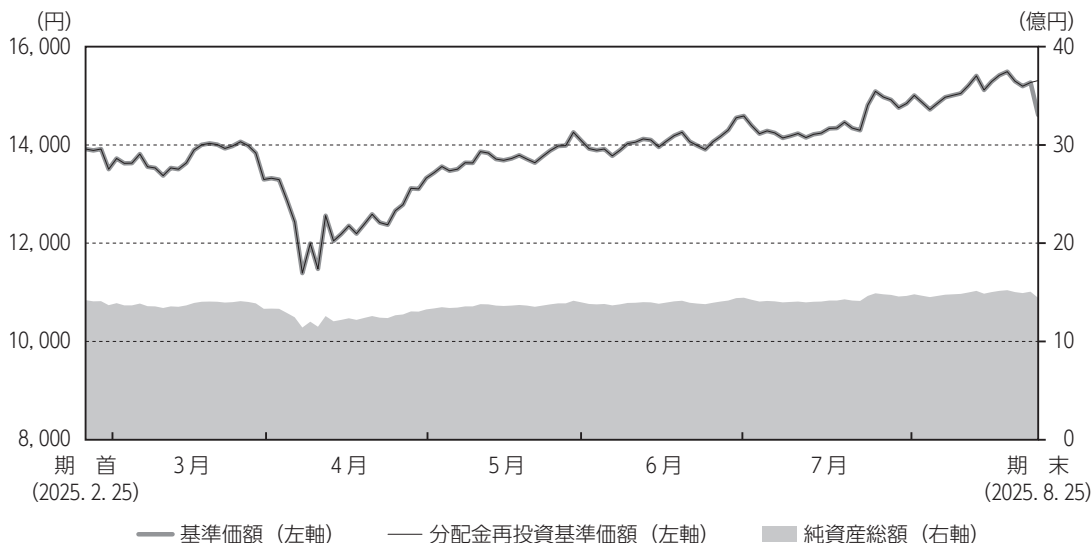
(注 1) 基準価額の騰落率は分配金込み。
(注 2) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。
(注 3) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

配当込み T O P I X (本書類における「T O P I X (配当込み)」をいう。)の指数値及び同指数に係る標章又は商標は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社 (以下「J P X」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び同指数に係る標章又は商標に関するすべての権利は J P X が有する。J P X は、同指数の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負わない。当ファンドは、J P X により提供、保証又は販売されるものではなく、当ファンドの設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対しても J P X は責任を負わない。



運用経過

基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

- * 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- * 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります(分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります)。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■基準価額・騰落率

期首：13,916円

期末：14,611円(分配金700円)

騰落率：10.0% (分配金込み)

■基準価額の主な変動要因

国内株式市況は、企業の旺盛な自社株買いに加えて海外投資家の資金流入が継続したことなどから、上昇しました。このような中で、経済大国日本復活への推進力となることが期待される企業の株式を中心に投資した結果、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

年 月 日	基 準 価 額		T O P I X (配当込み)		株 式 組入比率	株 式 先物比率
		騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
(期首) 2025年 2 月25日	円	%		%	%	%
	13, 916	—	4, 687. 95	—	97. 4	—
2 月末	13, 505	△ 3. 0	4, 616. 34	△ 1. 5	98. 0	—
3 月末	13, 299	△ 4. 4	4, 626. 52	△ 1. 3	98. 1	—
4 月末	13, 327	△ 4. 2	4, 641. 96	△ 1. 0	99. 0	—
5 月末	14, 086	1. 2	4, 878. 83	4. 1	98. 1	—
6 月末	14, 589	4. 8	4, 974. 53	6. 1	98. 3	—
7 月末	15, 006	7. 8	5, 132. 22	9. 5	99. 2	—
(期末) 2025年 8 月25日	15, 311	10. 0	5, 415. 50	15. 5	98. 4	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

(2025. 2. 26 ~ 2025. 8. 25)

国内株式市況

国内株式市況は上昇しました。

国内株式市況は、当作成期首より、トランプ米国政権による関税引き上げや米国の経済指標の悪化、円高進行などが懸念されて上値の重い展開となりました。2025年3月中旬以降は、日銀の利上げ観測などから銀行株主導で上昇しました。4月2日に発表された米国の相互関税が事前予想よりも厳しい内容となったことや、円高が急速に進行したことなどから株価は急落しましたが、同月9日に相互関税の上乗せ部分が発動された直後、その大部分の適用が90日間停止されたことや、円高が一服したことなどが好感され、株価は急反発しました。5月以降は、米中双方が関税を大幅に引き下げるなど米国の関税を巡る懸念が後退したことや、企業の旺盛な自社株買いに加えて海外投資家の資金流入が継続したことなどから、堅調に推移しました。7月下旬には、日米が通商交渉で合意したことが好感されて急騰し、上昇して当作成期末を迎えました。

前作成期末における「今後の運用方針」

当ファンドでは引き続き、グローバルな大競争時代を勝ち抜き、経済大国日本（技術立国日本等）の復活への推進力となることが期待される企業への投資を行います。長期的には株価は企業価値を正しく反映するとの哲学に基づき、企業の持続的な成長を支える研究開発投資等に着目をし、長期的な企業価値向上が期待される企業への投資を行う方針です。上記を踏まえ、中長期的な視点から保有銘柄や投資候補銘柄の事業環境および業績動向、成長戦略、研究開発投資等の進ちょく状況などを精査し、個別銘柄の選別を重視した運用を行っていきます。

ポートフォリオについて

(2025. 2. 26 ~ 2025. 8. 25)

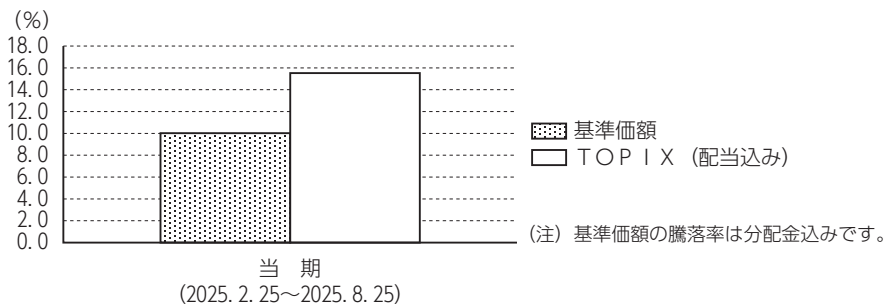
グローバルな大競争時代を勝ち抜き、経済大国日本（技術立国日本等）の復活への推進力となることが期待される企業の株式を中心に投資し、株式組入比率は90%程度以上を維持しました。

業種構成は、電気機器、化学、機械などの組入比率を高位にしました。個別銘柄では、ソニーグループ、三菱重工業、富士通などを組入上位としました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2025年2月26日 ～2025年8月25日	
当期分配金（税込み）	(円)	700
対基準価額比率	(%)	4.57
当期の収益	(円)	700
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	7,489

■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 127.14円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	✓ 1,261.23
(c) 収益調整金	3,907.49
(d) 分配準備積立金	2,893.57
(e) 当期分配対象額（a + b + c + d）	8,189.44
(f) 分配金	700.00
(g) 翌期繰越分配対象額（e - f）	7,489.44

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。
- (注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。
- (注4) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

当ファンドでは引き続き、グローバルな大競争時代を勝ち抜き、経済大国日本（技術立国日本等）の復活への推進力となることを期待される企業への投資を行います。長期的には株価は企業価値を正しく反映するとの哲学に基づき、企業の持続的な成長を支える研究開発投資等に着目をし、長期的な企業価値向上が期待される企業への投資を行う方針です。上記を踏まえ、中長期的な視点から保有銘柄や投資候補銘柄の事業環境および業績動向、成長戦略、研究開発投資等の進ちょく状況などを精査し、個別銘柄の選別を重視した運用を行っていきます。

1万口当りの費用の明細

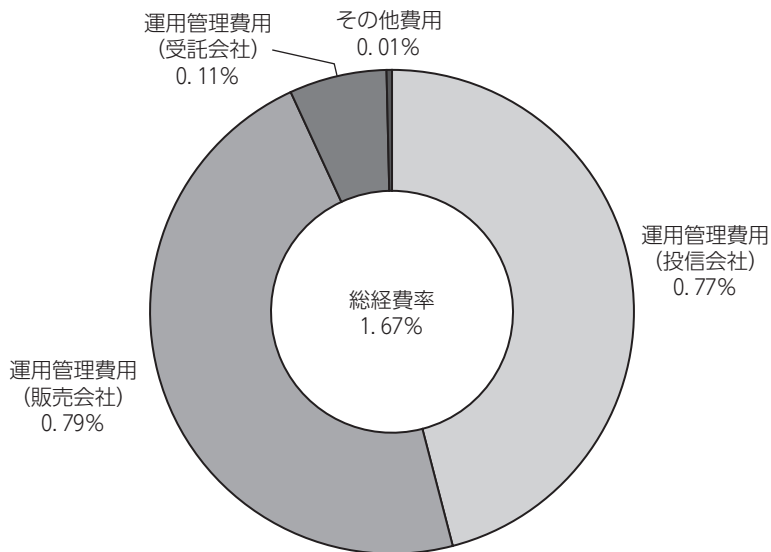
項 目	当 期 (2025. 2. 26～2025. 8. 25)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	115円	0. 827%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は13, 906円です。
(投 信 会 社)	(53)	(0. 381)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(54)	(0. 391)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(8)	(0. 054)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	5	0. 035	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	(5)	(0. 035)	
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0. 003	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0. 003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	120	0. 865	

- (注 1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。
- (注 2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。
- (注 3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。
- (注 4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.67%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

■売買および取引の状況
株 式

(2025年 2 月26日から2025年 8 月25日まで)

	買 付		売 付	
	株 数	金 額	株 数	金 額
	千株	千円	千株	千円
国内	58.8 (10.8)	143,450 (ー)	66.9	240,046

(注 1) 金額は受渡し代金。
(注 2) ()内は株式分割、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。
(注 3) 金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄
株 式

(2025年 2 月26日から2025年 8 月25日まで)

当 期				期			
買 付				売 付			
銘 柄	株 数	金 額	平均単価	銘 柄	株 数	金 額	平均単価
	千株	千円	円		千株	千円	円
旭化成	20	22,180	1,109	中外製薬	7.4	50,233	6,788
ファナック	4.6	18,698	4,064	東京エレクトロン	1.6	33,745	21,090
富士通	4.5	14,837	3,297	三菱重工業	6.6	24,012	3,638
イビデン	2	10,953	5,476	本田技研	14.5	19,258	1,328
花王	1.5	9,897	6,598	第一三共	4	14,412	3,603
京セラ	4	7,522	1,880	S M C	0.3	13,518	45,062
富士フイルム HLDGS	2.3	7,237	3,146	デンソー	6.5	12,604	1,939
浜松ホトニクス	4.3	7,064	1,643	アドバンテスト	1.6	9,765	6,103
レゾナック・ホールディング	2	7,034	3,517	パナソニック ホールディング	6	8,801	1,466
アイシン	3.5	6,629	1,894	三菱電機	2.5	7,545	3,018

(注 1) 金額は受渡し代金。
(注 2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

(1) 当作成期中の利害関係人との取引状況

(2025年 2 月26日から2025年 8 月25日まで)

決 算 期	当 期					
	買付額等 A	うち利害関係人との取引状況 B	B/A	売付額等 C	うち利害関係人との取引状況 D	D/C
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
株式	143	21	15.1	240	45	18.9
コール・ローン	2,502	ー	ー	ー	ー	ー

■株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

(2025年 2 月26日から2025年 8 月25日まで)

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	383,496千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	1,370,644千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.27

(注 1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。
(注 2) 単位未満は切捨て。

(2) 当作成期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

(2025年 2 月26日から2025年 8 月25日まで)

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	486千円
うち利害関係人への支払額 (B)	81千円
(B) / (A)	16.7%

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当作成期における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証券株式会社です。

■組入資産明細表
国内株式

銘 柄	期 首	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
化学 (13.9%)			
旭化成	11.7	31.7	39,212
レゾナック・ホールディング	1.9	3.9	15,112
日産化学	4.9	4.9	25,970
三菱瓦斯化学	6.5	6.5	16,991
日油	8	8	22,156
花王	2.9	4.4	29,629
富士フィルム HLDGS	12.5	13.5	48,600
医薬品 (7.8%)			
中外製薬	12.1	4.7	29,187
ロート製薬	2.6	3.2	8,081
第一三共	16.7	12.7	47,193
大塚ホールディングス	3.5	3.3	26,466
機械 (12.0%)			
ディスコ	1	1.2	48,204
S M C	0.7	0.4	18,344
クボタ	14	14	25,326
三菱重工業	27.2	20.6	78,424
電気機器 (49.0%)			
イビデン	1.7	3.7	26,714
ミネベアミツミ	8.5	6.1	15,503
三菱電機	13	10.5	38,976
ニデック	12	12	39,300
日本電気	2.7	11.9	54,525
富士通	17	20.2	72,134
セイコーエプソン	3.6	3.6	6,847
パナソニック ホールディング	15	11	16,907
ソニーグループ	31.1	31.1	129,811
T D K	20	20	37,800
日本光電工業	7.3	7.3	12,081
アドバンテスト	6	4.4	47,872
シスメックス	4.9	4.9	9,464
ファナック	6.2	10.8	47,800
浜松ホトニクス	14.1	18.4	30,498
京セラ	9.4	13.4	26,317
村田製作所	16.9	18.4	44,684
東京エレクトロン	3.5	1.9	38,427
輸送用機器 (9.8%)			
デンソー	25.2	21.7	46,752
アイシン	13.3	13.6	32,415
本田技研	32	17.5	29,680
スズキ	18.5	15.4	30,353
精密機器 (7.5%)			
テルモ	14.5	14.5	38,106
オリンパス	7.3	7.3	12,785
H O Y A	2.9	2.9	55,897
合 計	株 数、 金 額	株 数	千円
	432.8	435.5	1,420,554
	銘柄数 < 比率 >	40 銘柄	< 98.4% >

(注 1) 銘柄欄の () 内は国内株式の評価総額に対する各業種の比率。
(注 2) 合計欄の < > 内は、純資産総額に対する評価額の比率。
(注 3) 評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2025年 8 月25日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	1,420,554	93.2
コール・ローン等、その他	103,285	6.8
投資信託財産総額	1,523,839	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2025年 8 月25日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	1,523,839,672円
コール・ローン等	101,516,872
株式 (評価額)	1,420,554,000
未収配当金	1,768,800
(B) 負債	80,648,791
未払収益分配金	69,141,117
未払解約金	3,378
未払信託報酬	11,466,674
その他未払費用	37,622
(C) 純資産総額 (A - B)	1,443,190,881
元本	987,730,245
次期繰越損益金	455,460,636
(D) 受益権総口数	987,730,245口
1 万口当り基準価額 (C / D)	14,611円

* 期首における元本額は1,020,436,266円、当作成期間中における追加設定元本額は6,525,524円、同解約元本額は39,231,545円です。
* 当期末の計算口数当りの純資産額は14,611円です。

■損益の状況

当期 自 2025年 2月26日 至 2025年 8月25日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	13,612,690円
受取配当金	13,565,357
受取利息	47,333
(B) 有価証券売買損益	135,026,005
売買益	204,702,800
売買損	△ 69,676,795
(C) 信託報酬等	△ 11,504,296
(D) 当期損益金 (A + B + C)	137,134,399
(E) 前期繰越損益金	285,806,912
(F) 追加信託差損益金	101,660,442
(配当等相当額)	(385,955,102)
(売買損益相当額)	(△ 284,294,660)
(G) 合計 (D + E + F)	524,601,753
(H) 収益分配金	△ 69,141,117
次期繰越損益金 (G + H)	455,460,636
追加信託差損益金	101,660,442
(配当等相当額)	(385,955,102)
(売買損益相当額)	(△ 284,294,660)
分配準備積立金	353,800,194

- (注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。
- (注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。
- (注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	12,558,896円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	124,575,503
(c) 収益調整金	385,955,102
(d) 分配準備積立金	285,806,912
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	808,896,413
(f) 分配金	69,141,117
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	739,755,296
(h) 受益権総口数	987,730,245口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金 (税 込 み)	700円

●〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。 ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。 ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。 ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
--

《お知らせ》

■投資態度の変更について

2025年5月17日付で投資態度に文言を追加しました。(下線部を追加)

変更前：グローバルな大競争時代を勝ち抜き、経済大国日本復活への推進力となることが期待される企業の株式を中心に投資します。

変更後：グローバルな大競争時代を勝ち抜き、経済大国日本 (技術立国日本等) の復活への推進力となることが期待される企業の株式を中心に投資します。

■信託財産留保額の撤廃について

2025年5月17日付で信託財産留保額（基準価額の0.3%）を撤廃しました。

■運用報告書にかかる信託約款の条文変更について

2025年4月1日付の投資信託及び投資法人に関する法律の改正により、運用報告書にかかる規定が変更されたため、運用報告書にかかる信託約款の条文を以下のとおり変更しました。(下線部を変更)

<変更前>

(運用報告書に記載すべき事項の提供)

①委託者は、投資信託及び投資法人に関する法律第14条第1項に定める運用報告書の交付に代えて、運用報告書に記載すべき事項を電磁的方法により提供します。

②前項の規定にかかわらず、委託者は、受益者から運用報告書の交付の請求があった場合には、これを交付します。

<変更後>

(運用状況にかかる情報の提供)

①委託者は、投資信託及び投資法人に関する法律第14条第1項に定める事項にかかる情報を電磁的方法により提供します。

②前項の規定にかかわらず、委託者は、受益者から前項に定める情報の提供について、書面の交付の方法による提供の請求があった場合には、当該方法により行なうものとします。

2023年11月に「投資信託及び投資法人に関する法律」の一部改正が行われ、交付運用報告書については書面交付を原則としていた規定が変更されました。本件により、デジタル化の推進を通じて顧客の利便性向上を図るとともに、ペーパーレス化による地球環境の保全など、サステナビリティへの貢献に繋がるものと捉えております。今後も顧客本位の業務運営を確保しつつ、電磁的方法での情報提供を進めてまいります。